

バウスステージ広尾

BAUS STAGE HIROO

No. 09-006-2019作成

新築
集合住宅

発注者	日本土地建物株式会社	カテゴリー	A. 環境配慮デザイン B. 省エネ・省CO ₂ 技術 C. 各種制度活用 D. 評価技術/FB			
設計・監理	佐藤工業株式会社一級建築士事務所		E. リニューアル F. 長寿命化 G. 建物基本性能確保 H. 生産・施工との連携			
施工	佐藤工業株式会社東京支店		I. 周辺・地域への配慮 J. 生物多様性 K. その他			

地域と呼応し、潤いを紡ぐ



地域にやさしく佇むファサード(左)陰影を織りなすフィン(右)



東・北側の歩行空間を拡張した開放的な外部空間



以前の東側道路(左)以前の北側道路(右)

計画概要

本件は、日本土地建物の高級賃貸マンション・新ブランド「バウスステージ」の都心第1号物件である。

立地は、東京メトロ広尾駅徒歩4分ながら、外苑西通りから離れた閑静な住宅地に位置し、大使館や外国人向け施設が多くグローバルな地域である。更に、有栖川宮記念公園や広尾稲荷神社など緑で豊かな住環境であることから、好立地条件に見合うデザイン、新ブランドにふさわしいデザインとした。

地域の景観と街並みへの貢献

せっき質2丁掛けタイルによる風合いを生かしたフィンと、ガラス・木調ルーバーで構成されたバルコニーの連なりが、リズムカルな流れを与えると同時に日射遮蔽の機能を持ち合わせている。

以前の東側・北側は、車両・歩行者の交通量が多いわりに道路が狭く、暗めで安全面に欠ける印象であったが、敷地内に歩行空間を設け、適度な外構照明の設置により、安全性の向上と明るい街並みの形成に寄与している。

また、地域への配慮として、室外機の騒音対策、臭気の脱臭対策を行っている。

内外部の連続性

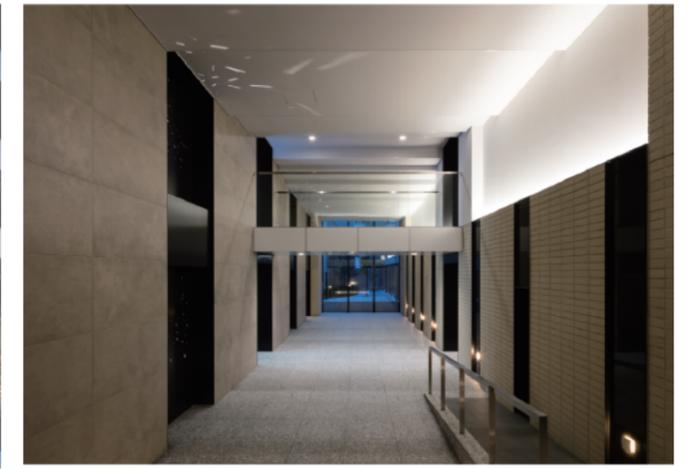
緑を配したメインアプローチと中庭と一体となったエントランスホールは、視覚的に繋がりを持っている。

また、南棟と北棟を結ぶブリッジは、エントランスホールと中空で交差する。

この建物は、内部と外部がエントランスホールを中心に連続性を生み出し、緑の潤いや自然光の清々しさを柔らかく繋げている。



メインアプローチ



吹抜けエントランスホールとブリッジ

柔らかな光に包まれた

エントランスホール

2層吹抜けのエントランスホールは、LED照明の間接光を主体とした照明計画とし、最小限の光源で適度な照度を確保し、落ち着いた空間を醸し出している。

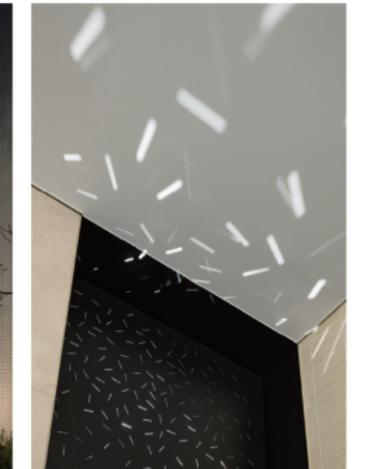
木漏れ日を疑似的に模した「木漏れ日演出照明」は、住まう人々、訪れる人々へ印象深い存在となっている。



エントランスホールからの中庭



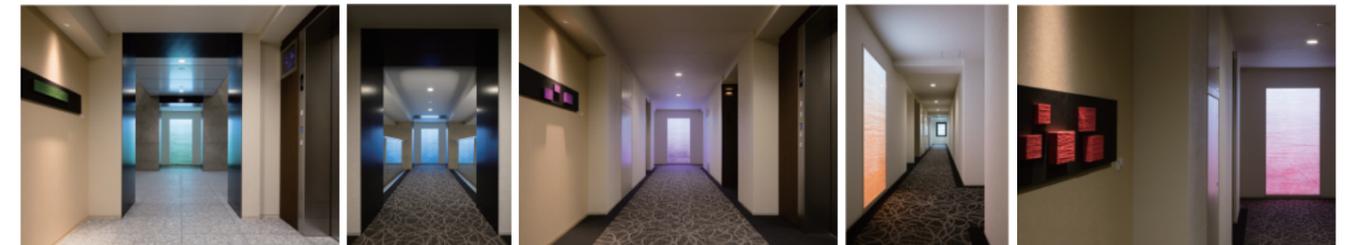
中庭からのエントランスホール



木漏れ日演出照明

有栖川宮記念公園との調和

生物多様性の保全への配慮として、在来植種の積極採用と同時に、一部に有栖川宮記念公園の植樹を選定をしている。また、有栖川宮記念公園に生息する樹種・草花の色彩をモチーフとしたサイン計画としている。自然由来となる和紙でアートワークを施し、「常盤色・紺碧色・菖蒲色・黄丹色・梅重色」を各階ごとに光壁、階数表示を設けた。有栖川宮記念公園と関連づけたデザインとすることで、住まう人々にとって地域との繋がり意識付けになればと考えている。



左から 1階:常盤色 2階:紺碧色 3階:菖蒲色 4階:黄丹色 5階:梅重色

設計担当者

統括：堀内裕樹／建築：大峯美穂、牧野創太／構造：山口薫、矢富佳剛
給排水衛生・機械設備：萩原寿樹、池田紀生／電機設備：渡辺英章、浜幸次

主要な採用技術 (CASBEE準拠)

- Q3. 1. 生物環境の保全と創出 (在来植種の積極採用と、一部に有栖川宮記念公園の植樹を選定し、地域との共生を図る)
- Q3. 2. まちなみ・景観への配慮 (歩行空間の拡張による明るい街並みの形成)
- Q3. 3. 地域性・アメニティへの配慮 (外部と連続する開放的なエントランスホール)
- LR1. 2. 自然エネルギー利用 (開口部を十分確保し、自然採光を取り込んだエントランスホール)
- LR1. 3. 設備システムの高効率化 (LED照明)
- LR3. 3. 周辺環境への配慮 (設備機器の配置や騒音対策、設備排気の配置や脱臭対策)

建物データ

所在地	東京都港区
竣工年	2018年
敷地面積	1,818㎡
延床面積	4,391㎡
構造	RC造
階数	地下1階、地上5階